



墨東の学び

令和7年度 学校通信⑧号

令和7年10月31日発行

都立墨東特別支援学校

校長 西岡 陽子

【S】高等部の取組

・演劇の手法を活用したコミュニケーションワークショップ

9月10日(水)には 令和7年度「インクルーシブな学び」プログラム事業として特定非営利活動法人PAVLICの皆さんをお招きし、演劇の手法を活用したコミュニケーションワークショップを行いました。この団体は「演劇ワークショップ」を中心とする芸術表現を通じた体験型学習の提案と実践に関する事業を行い、家族間、地域間、組織間、世代間でのコミュニケーションに必要な能力の育成を促し、活力あるコミュニティづくりに寄与することを目的として活動をしています。今回参加したのは高等部④グループと⑤グループの生徒たちです。3から4人ほどのグループに分かれ、まずは生徒と講師で交流を深めました。講師の方々はプロの俳優さんもあり、生徒たちも徐々に会話に引き込まれるように積極的にやり取りをする姿がありました。

後半はグループごとに数分の演劇作品をつくり、最後は前に出て発表をしました。それぞれが役割を担い、演じる姿は教室での授業では見られない表情でいっぱいでした。活動終了後も生徒たちからは「楽しかった!」「このグループの発表が面白かったね。」など活発なやり取りがみられました。生徒たちそれぞれが普段経験できない体験の中で学びがあったようです。

講師の方々からも「生徒たちの素直で楽しいやり取りがとても良かった。素晴らしい機会をいただきました。」という感想をいただきました。

・アクセシブルな図書を通じた学びの機会を促進する「りんごプロジェクト」

9月24日(水)令和7年度「インクルーシブな学び」プログラム事業「りんごプロジェクト」の皆様をお招きして、バリアフリーな読書活動を体験しました。

「りんごプロジェクト」は、障害の有無に関係なく、全ての人が読書を通じて豊かな経験を得ること、また全ての人に情報を届けることがインクルーシブな社会を実現する一歩になると考え活動している団体で、特別支援学校だけでなく様々なイベントなどにも参加し活動をしています。当日は S 高等部の①グループから③グループと S 中学部の①グループから③グループが活動に参加しました。

最初に、バリアフリー図書についてお話があり、その後、生徒たちの周りに置かれた様々な本を実際に手に取って教職員と一緒に楽しみました。音声で読み聞かせてくれる本、手で触って感じる本、布でできた柔らかい触り心地が特徴の本、文字が大きい本、ピクトグラムがつ



いていて、より分かりやすさを工夫している本など多くの本の中からそれぞれお気に入りの本を見つけて楽しむ姿が印象的でした。最後に代表の生徒がお気に入りの本を前で発表し活動を終わりました。この活動を通してより本に親しみがわき、読書の魅力が生徒たちに伝わったのではないかと思います。

【S】ミュージック・シェアリング訪問プログラム第2回を開催

10月16日(木)認定NPO法人ミュージック・シェアリングによる第2回の訪問プログラムを実施しました。午前の部はS小学部全学年とかもめ分教室中学部1年生が、午後の部は中学部④⑤学習グループ、高等部①②③④a④b学習グループが参加しました。今回は、荒絵里子さん(オーボエ)と遠藤直子さん(ピアノ)が演奏してくださいました。

オーボエは小さな楽器ですが、体育館に響く力強い音やきれいな音に児童・生徒が聴き入っている様子でした。代表の児童・生徒3名がオーボエを吹く体験をしました。空気を力いっぱい吹き込んでも、なかなか音が出ず、音を出す難しさと演奏者の方の技術のすごさを感じることができました。

質問コーナーでは、「オーボエができるのには、どのくらいかかるの?」「オーボエを吹くにはどのくらいの力が必要?」「オーボエはどうしたら吹けるようになるの?」などの質問がでました。演奏会終了後には、直接演奏者の皆さんに御礼の気持ちを伝えた児童・生徒もあり、とても貴重な体験となりました。



【全校】学校評価アンケート実施中です

現在、今年度の学校評価アンケートを実施中です。10月28日付配信のさくら連絡網を御確認ください。御協力をお願いいたします。